



南相馬市議会議員

もんま 和夫

門馬 かずお

市議会活動報告 ⑨

2017年2月号

発行責任者：門馬和夫 後援会

連絡先：南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢 202

TEL/FAX：(0244) 22-5578

MAIL：kzkz6932@gmail.com

和夫のまちづくり研究室

第9回 医療復興に向け効果的な対策が必要 その②

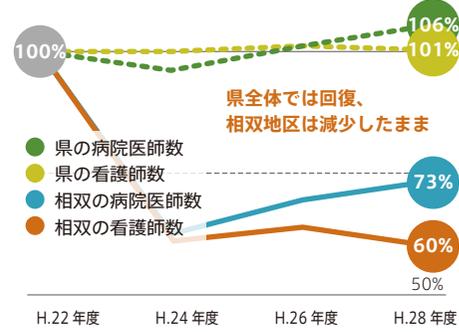
本年1月に原町区内4病院と有志議員で勉強会を行いました。その結果も含めて、最近の市内医療の課題などを報告します。(その1は27年11月の活動報告④)

① 県の医療人材は回復、相双は低迷

福島県の病院医師数は、震災後65人減少したものの、28年度には2千134人と震災前より150人増えています。

相双地方の医師数は、新たに初期研修医制度などに取り組み回復傾向にありますが、震災前比73%の88人に留まっております。専門医や入院患者を診る医師不足が深刻な診療科が発生しています。

グラフ1: 県と相双地区の医師数・看護師数



県内の病院看護師は、震災により若干減少しましたが間もなく回復し、28年度では震災前より17人増えています。
相双の病院看護師は、家族の避難や業務などにより、多くの職員が退職しました。

県外からの看護師募集なども力を尽くしていますが、双葉准看護学院閉鎖の影響が大きく、減少傾向です。28年度は震災前から77人減の71人です。

(例えば市立総合病院では、県外など震災後採用は71人で、全体の14人の50%が新しいスタッフです) また、薬剤師、放射線・臨床検査技師、臨床工学技士、看護助手、理学療法士など医療全ての職種が現在も不足状況です。

② 市内の入院は制限されている

各病院間や病床の種類ごとで若干差異はありますが、専門医師、看護師不足などにより病床が再開出来ず、市内の約50% (526床) が休止状態で、さらに病院移転により病床再開率は41%です。

のうち320人が現在も入院中ですが、病床不足で相双地方には帰れない状況です。

④ 小児科・泌尿器科

専門医が不足しているため市内には入院できる病院がなく、相馬市などの病院で入院治療を受けています。

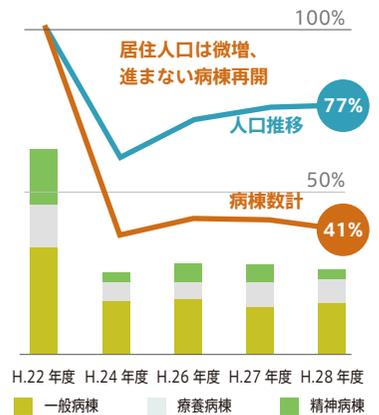
④ 本市平均医療費は震災前の1.4倍に

27年度の1人当たり医療費(国保)は37.4万円で、震災前の21年度に比べて10.8万円・40%増、全国比10%高です。
全国の医療費は6年間で21%増です。
本市医療費の伸びは異常ともいえます。避難生活の長期化や家族分離などによる健康問題と、この医療費の伸びの関連などをしっかり検証する必要があります。

グラフ3: 医療費の推移 (単位: 円)



グラフ2: 病棟数と人口推移



参考: なぜ入院の受け入れが増えないか

・病棟再開するには、国の基準があります。
・例えば、市立総合病院の入院病床は50〜60床単位ですが、入院治療・当直に対応する専門医師のほか、約30人/病棟の看護師が必要です。(30人集まらなければ病棟を再開できない)

③ 産科・人工透析・精神科等が特に大変!

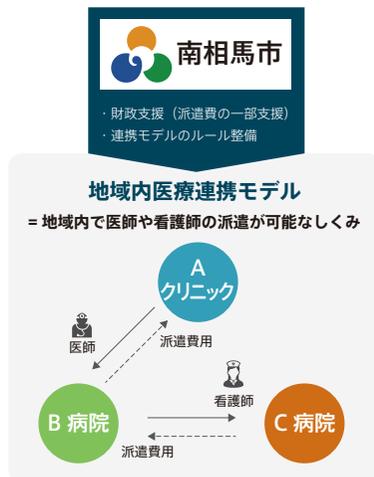
① 産科
市立総合病院と西潤マタニティクリニックの2病院(常勤医師は各々1人)で4百人/年ほどの出産を担っています。両医師とも36日過酷な勤務の連続で「限界」との悲痛な声が寄せられています。

⑤ 新たに提案します!

○ 医療人材派遣・連携事業

県は、広野町の高野病院の院長死亡に伴う医師不在に対応するため、**医師確保や財政の公的支援を表明**しました。

本市でも専門医やスタッフ不足により、産科や小児科に続いて人工透析体制や精神科など喫緊の事態が発生しています。市外に支援を求めると同時に、危機回避のため地域内連携を研究すべきです。市主導で医師会や病院に呼びかけ、喫緊の事態について、医師や専門的な看護師・技士などを相互に派遣できる「**地域内医療連携モデル**」を早急に構築すべきです。



⑥ 医療復興の基本戦略はこれ!

- 1 医療人材を確保する
- 2 救急医療・専門医療環境を整備する
- 3 生活習慣病予防体制を構築する



写真で見る主な活動 (28年11月～29年1月)

議会報告会 ご案内

2月17日(金)18時～
高平生涯学習センター
(原町区下高平)

2月18日(土)10時～
市民情報交流センター 中会議室
(南相馬市立中央図書館隣)

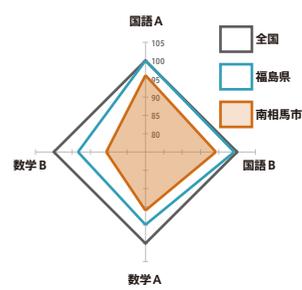
2月18日(土)14時30分～
西部コミュニティセンター
(鹿島区小池)

語学研修や視野拡大等の目的で、首都圏私立中学校258校中82校(32%)は、既に修学旅行を海外に変更しています。アジアを含めた平均で20万円、高額のオセアニア・欧米は26万円です。本市の小中学生は3千543人です。年間1.5億円ほどあれば、引率経費も含めて、中学3年を全員・市費海外修学旅行派遣が可能です。復興基金138億円を単なる赤字補填や施設建設に使ってしまうより「全国からの支援金で、毎年中学3年全員を海外修学旅行に連れてゆく。それを楽しみに、しっかり勉強して」との使途のほうが、夢・将来性があると思いませんか？

なぜ「中学生の海外修学旅行」か

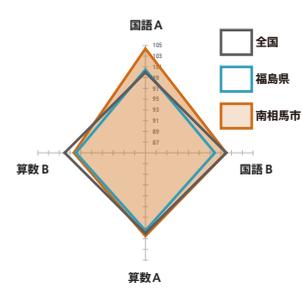
国語・算数のAやBとは？
A. 主として「知識」に関する問題
B. 主として「活用(知識・技能等を実生活中に活用する力)」に関する問題です。

中学校 学力テスト結果



	南相馬市	福島県	全国
国語A	72.6	75.6	75.6
国語B	61.7	65.0	65.5
数学A	56.6	59.0	62.2
数学B	37.8	41.2	44.1

小学校 学力テスト結果



	南相馬市	福島県	全国
国語A	76.1	73.3	72.9
国語B	57.8	56.6	57.8
算数A	78.0	77.2	77.6
算数B	46.4	46.2	47.2

市は「日本一の教育」を目指しており、その成果を毎年4月の全国学力・学習状況調査で評価しています。11月に結果が公表され、小学6年は概ね全国平均並みでしたが、中学3年は4科目全てで全国平均を下回りました。

12月議会では、教育問題を質問しました

南相馬市の復興には①教育②医療・健康③雇用の3本の施策の柱が重要です。

12月議会の一般質問から

問 学力テストの結果を踏まえ、市政の成果と課題をどう捉えているか？

答 小学校の国語の知識に関する問題に成果が見られ、小中学校ともに活用に関する問題に課題が見られた。

課題解決には、小中学校の授業改善が必要であり、従来の知識注入型の授業でなく、思考力、判断力、表現力を重視する新しい授業スタイルを推し進める。

門馬の考え

学力向上を目指すには「教師の授業の分析」だけでなく「市の全体的な教育の方向性や方策の検証」が重要です。また、市教育委員会としての簡明な目標、生徒の勉強の動機付けとなる取り組みが大切と考え、次を質問しました。

市は教育日本一を目指しているが、

① 学習時間や大学進学率、スポーツ大会出場など具体的な目標が必要

② 柱となる魅力的な施策がない

と考えるが如何か？

答 ①目標は各学校で取り組んでいる。市の目標は、次年度に向け研究する。

②魅力的な取り組みは、スパーチャーター招へい事業やICTの活用など取り組んでいる。学力に結びつく効果はすぐには表れないが、結びつくような取り組み

みを今後とも進める。

問 日本一の教育を実現するため、教育振興基金を創り、中学3年生全員を外国修学旅行に派遣するなど検討しては？

答 一緒に海外旅行とはいかないと思う。基金については、保護者や財政当局とも協議・研究してゆく。

一般質問を終えて

多くの市民は、「市の将来性」教育と捉え、教育に希望と夢を託しています。市は「日本一」を目指すとしており、言葉だけが上滑りしており、効果的な施策はありません。

子どもたちに、江戸時代から継承されてきた二宮仕法、震災を行政区など地域で乗り越えてきたこと、本来の自然の豊かさなどの日本一の地域の誇りも教えるとともに、学力・経験日本一に向けて3年生全員の外国修学旅行など魅力的な施策にもっとチャレンジすべきです。本市の教育の柱に、

① 地域の誇りを教える

② 被災地の逆境を跳ね返す魅力的な教育施策に取組む

などを加えるべきです。



相馬地方広域議会 (議員12名) の活動報告

(写真左)相馬地方広域議会は、南相馬市(5人)、相馬市、新地町、飯館村の合計12名の議員で構成されています。広域の消防事業や看護学校事業の議会です。(写真右)2016年11月15日に、広域議会で長野県諏訪地方広域消防本部救急指令室を視察した写真です。相馬地方の救急連絡体制も、視察先に勝るとも劣らない先進体制ですので、安心してください。



小高ハッカソン
2017.1.14

ハッカソンとは、一定期間集中的にプログラムの開発やサービスの考案などを競う催し(の事だそう)。第2回の今回は、1月13～15日の3日間、「小高に、こどもが帰ってくる」をテーマに、8組40人がアイデアを競い、「小高駅前のキッチンカーの活用」を題材にしたチームが第1位となりました。市内の若者のチャレンジは、着実に大きく進んでいます。

銘醸館でのMJCアンサンブル定期コンサート

2016.12.18

MJCは2009年6月に南相馬市と近隣の中学生、高校生を対象にして結成されました。

震災による避難で、十分な合同練習もできないので、と指揮者は謙遜していますが、南相馬市民にしっかりと希望の歌声が届いています。

これも、日本一の教育活動だと思います。(さすが、同級生!うれしい)

